

12



キトウシ国際サイクリング

キトウシ国際サイクリング大会に初めて参加しました。昨年、旭川に転勤してから始めたサイクリングは、単独で各地を巡るものばかりでしたので、大勢で自転車を楽しむのは、当地では初めて。単独走行とはまた違う面白さや安心があることを知れる有意義な体験でした。

今回で9回目となる大会には、募集人数600人のところ約700人も大勢がエントリーする盛況でした。私が参加し

たBコース48kmでは、キトウシの森を出発してから東川の田畑を通り抜け、補給所がある忠別ダムの広場までの前半部分と、忠別ダムを一周しながら細かなアップダウンやトンネルを通った後、忠別川沿いのサイクリングロードを駆け抜ける後半部分からなるコースでした。

コース最大の難関は、前半の終わりに待ち受けている忠別ダムまでの2km弱の上り道です。長い上り坂なので、ペース配分がとて重要なポイントで、坂に入るまでの間は筋力を温存しておく必要があるほか、坂を上っているときにはスピードを無理に維持せず、ギアを軽めに調整して多少スピードを落とすとしても筋

力の急激な消耗を避ける作戦で臨みました。この日は、それほど日差しが強くなかったことも幸いして、この難関をクリアすることができ、ダムの広場の補給所で大雪山国立公園の天然水やバナナ、饅頭、牛乳などでエネルギーを補いました。坂を上り切った達成感と、小腹を満たした満足感の中

で、ダムから眺める雄大な残雪またら模様の大雪山系の山々と、ダムの堤から見下ろす緑豊かな大パノラマを楽しんで、気分も新たに後半戦に臨みました。後半コースは、多少のアップダウンや所々にこぼ道があったので、注意を要しましたが、下り坂や平地が多かったこともあり、無事にゴールまで完走することがで

きました。他の参加者とペースを合わせて並走したり、上り坂などの苦しい時に目標となる先行者を視界にみつけると、単独走行時と異なると、何とか遅れずついていこうと思えずとやる気が沸いてくるプラス効果があることに気づきました。

レース中は、大会スタッフの伴走や、交差点等の岐路でのコース誘導、パンク修理などのトラブルシューティング、リタイアを余儀なくされた参加者のレスキュー、回収など、大会運営サイドの充実したサポートがあったので、安心してできてありがたかったです。

り、おいしい東川米のおにぎりと野菜たっぷりジンギスカンや焼き鳥などを味わいながら、サイクリングの健闘を称え合いました。予め席が割り当てられるのではなく、立食形式で焼き場を回って様々な人と交流ができる形式の会場設営も面白い趣向だと思えました。パーベキュー後の抽選会では、東川町のお米やお酒、お味噌、アスパラ、お菓子などの名産物を中心に充実したラインナップで景品抽選が行われました。こんなに充実したサービスの数々を3000円と破格な参加費で楽しむことができありがた限りでした。

大会には海外や首都圏からの参加者もいたようだったので、私が今回知り合った方は、その満足度に、次回はお子さんもつれて参

加したいと感想を述べらるようです。有名な観光スポットに至るまでに通る整備されたサイクリングロードや周囲を田畑に囲まれた農道をサイクリングするだけでも、さわやかな風を感じながら、広大な地形の中で様々な農作物や道端にきれいに咲く草花などの様子を楽しむことができます。シカやキツネ、リスなどの野生動物を間近に目にすることも、訪問者からするととても新鮮で魅力的と映るでしょう。サイクリングを通じて、旭川や道北の魅力を内外の人々に発信して、地域を少しでも盛り上げていければ、と思っています。

大会には、電動スポーツバイクでの参加者もいました。電動バイクは、上り坂も楽に走れる優れものので、気軽に近郊観光する際のツールとしての活用余地大です。旭川駅の観光物産情報センターや自転車店でレンタルできます。



【佐藤弘康(さとうひろやす)】1970年、宮城県出身。東北大学法学部卒。システム情報局企画役、決済機構局企画役、業務局企画役、券局戸田発券課長を経て、2025年、旭川事務所長に就任。